

PRESS RELEASE

[報道関係資料]



2021年3月30日
一般社団法人 大学スポーツ協会

UNIVAS、『UNIVAS AWARDS 2020-21』最優秀賞受賞者を発表！ 『UNIVAS CUP 2020-21』年間総合優勝 早稲田大学が連覇!! スポーツ庁 室伏長官がプレゼンターとして登壇し、各部門の最優秀賞受賞者の栄誉をたたえる！

一般社団法人大学スポーツ協会(本社:東京都千代田区、会長:鎌田薫、以下 UNIVAS)は、3月29日、大学スポーツ振興に貢献したアスリートやスポーツに関わる学生、団体を表彰する『UNIVAS AWARDS 2020-21』の表彰式をオンラインで開催し全国へ配信しました。各部門の最優秀賞と、「UNIVAS CUP 2020-21」の年間総合優勝並びに各部門賞の発表を行いました。



左から畠山愛理氏(元新体操日本代表)、池田敦司(UNIVAS 専務理事)、川原貴(UNIVAS 副会長)、樋口哲司氏(MS&AD ホールディングス 専務取締役)、熊谷豊選手(パラアスリート、三井住友海上所属)、スポーツ庁 室伏広治長官、鎌田薫(UNIVAS 会長)、有森裕子(UNIVAS 副会長)、田中大貴氏(スポーツアンカー)

「UNIVAS CUP 2020-21」の年間総合優勝は、昨年に続き、各競技で優秀な成績を収められた早稲田大学が2連覇を果たしました。

■ スポーツ庁 室伏広治長官 からの祝辞



「この度「UNIVAS AWARDS 2020-21」の各賞の受賞者が決定したこと誠にありがとうございます。受賞されたみなさま方に対して、改めてお祝いの言葉をお送りさせていただきます。本当におめでとうございます。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、社会が一変しました。多くのスポーツ活動や大会が中止、延期を余儀なくされました。キャンパスライフも普段通りに行うことが出来ない。そのような状況で、大学スポーツ活動の継続に尽力されました学生アスリートをはじめ、大学関係者のみなさまに改めて感謝申し上げます。本日はそのような厳しい状況の中で、競技成績のみならず、学業充実や安全安心に対する評価とUNIVASの理念をまさに体現する学生、指導者、そして団体のみなさまが表彰されましたけれども、大学スポーツ全体がさらに活性化するように、受賞者のみなさまには、引き続き大学スポーツ界を牽引していただくと共に、各賞を受賞された学生のみなさまにおかれましては、将来社会に出た際には、大学スポーツを通じて培ったスポーツパーソンシップを遺憾なく発揮していただければと思います。UNIVAS 加盟団体がこの先さらに充実した取り組みを進めていただく事によって、「UNIVAS AWARDS」の価値が益々高まり、大学スポーツのさらなる振興に繋がる、より存在感のある賞へと発展することを期待しております。また UNIVAS パートナーである KDDI 株式会社様、株式会社マイナビ様、MS&AD インシュアランスグループホールディングス様、河合塾グループ 株式会社 KEI アドバンス様におかれましては、UNIVAS の理念に共感していただき、また大学スポーツ政策の推進にご理解いただいていることをここに感謝申し上げます。スポーツ庁としましても感動していただけるスポーツ界の実現に向けて大学スポーツの振興に引き続き取り組むと共に、UNIVAS の活動が日本全体の活性化につながることを祈念いたしまして私のお祝いのメッセージとさせていただきます。おめでとうございます。」

■「UNIVAS AWARDS 2020-21」開催に際して（UNIVAS 会長 鎌田薫）



「皆様はそれぞれの分野で卓越した成果を挙げられました。今後はその皆さんの資質、能力をご自身の発展だけでなく部、大学、そして地域、社会の発展につなげていただけることを確信しております。併せて、この会の開催にあたりまして、この後ご登壇頂きますスポーツ庁 室伏広治長官をはじめとして多くのみなさまに支えられてまいりました。この場を借りて関係者の皆様に心から御礼申し上げます。受賞者のみなさま本当におめでとうございます。」

■「UNIVAS CUP 2020-21」の総評（UNIVAS 専務理事 池田敦司）

「UNIVAS CUP2 年目は、コロナの影響が大きく、予定通り1年間開催出来るかどうか不安を抱えてスタートをしました。2019 年は、6 月半ばから、野球とアーチェリーを皮切りにスタートをきりました。2020 年は、コロナ禍で手探りの中、自粛があったり、各競技団体の大会の開催をするべきか、しないのかの検討から始まりました。このような状況下、9 月中旬に本日サポーターングスタッフで受賞された学生アーチェリー連盟の今田さんが頑張られたアーチェリー王座決定戦から開催が始まりました。UNIVAS 加盟競技団体 32 のうち、21 競技、大会数で 25 行われ、約3分の2の競技を実施することが出来ました。しかしながら 11 の競技は、競技団体の方々や連盟に携わっている学生のみなさまが苦労されたのですが、残念ながら全国大会を実施出来なかったというシーズンでした。2021 年度は、全競技実施出来るよう、UNIVAS として精一杯サポートしていく所存です。UNIVAS は、220 大学、42 都道府県から会員が参加頂いていますが、8つの地域に分けて作られた、地区部門賞はとても良い試みであると思っています。2020 年度、この地区別の特筆すべき点は、国立大学3校が入っている点です。国立大学の躍進は大変嬉しく思います。今後、大学スポーツの価値向上をあげていくためにスタートした「UNIVAS CUP」は、各競技団体が実施しているインカレは歴史と伝統を繋ぎながら運営しているので、それを束にすることによって、大きなパワーになり、社会の注目度が上がっていく効果を期待しています。コロナ禍でほとんどが無観客での開催になりましたが、UNIVAS CUP の大会にしたことで、スポーツ庁からの支援をいただくことでライブ配信を拡大してきました。友達や保護者が、会場に応援にいけない中、ライブ配信を行うことアスリートの頑張りを試聴されている方に届けられたのではないかと思います。」



各部門の最優秀賞の受賞者とコメントを記載しておりますので別紙資料を参照ください。

【別紙】

【個人賞】

◆パーソン・オブ・ザ・イヤー

文武両道を実践し、他の模範となる運動部学生

<最優秀賞>

名前	大学名	所属
安山 涼香	中京大学	女子ソフトボール部

★安山涼香さんのコメント★

「多くの優秀賞の方々の中から選出して頂き大変嬉しく思います。学業、競技、ボランティアをバランスよく行うために、目の前にあることを一生懸命やってきたことが賞という結果に繋がったと思います。多くの方々の支えがあって、4年間という大変濃い時間を過ごすことができました。今シーズンは、大変なご時世だったため、多くの支えがあって、大会の開催、運営に繋げて頂いたことにより、私にとってかけがえのない時間となりました。今後は、社会人でも競技を続けていくので、マイナー競技であるソフトボールの普及に貢献出来たらと思っていますし、小さい子供たちの目標となれる選手になっていきたいと思っています。」

<優秀賞>

名前	大学名	所属
上原 惇	九州産業大学	準硬式野球部
柴田 佳歩	立命館大学	ホッケー部
田中 啓左	青山学院大学	パワーリフティング部
田辺 陽太	岡山商科大学	ウエイト・トレーニング部
奈良岡 寛子	早稲田大学	漕艇部
村上 恵右	国士舘大学	男子新体操部

◆ウーマン・オブ・ザ・イヤー

文武両道を実践し、他の模範となる運動部女子学生

<最優秀賞>

名前	大学名	所属
田中 佑美	立命館大学	女子陸上競技部
堀 美紀	中京学院大学	女子卓球部

★田中佑美さんのコメント★

「この1年間はコロナの影響で、これまでインカレで行われてきた大学対抗戦として、チームで戦える雰囲気があったのですが、今回はそれが出来なく、各自が努力して、オンライン、日常生活においても声をかけながら、大学として一体感を作りあげていくことを心がけてきました。このような時代だから部員同士の絆を目に見える形で押し出していった1年と感じています。今後は実業団で競技を続けていきますので、競技と社業の両方に真摯に取り組んで、デュアルキャリアを実践していきたいと思っています。」

★堀美紀さんのコメント★(代理)

「4年間頑張った学生でした。卓球、学業の両立に真摯に取り組んだ結果だと思います。これから社会に出てから勝負になると思いますので、卒業してからもぜひ頑張りたいと思います。大学生活で培ったものを存分に発揮して、立派な社会人生活を過ごして欲しいと思います。」

<優秀賞>

名前	サポート対象	申請団体
木村 直	愛知学院大学	バレーボール部(女子)
京井 杏樹	武庫川女子大学	サッカー部
中原 みなみ	甲南大学	女子陸上競技部
山川 玲羅	岡山商科大学	ボウリング部

◆パラアスリート・オブ・ザ・イヤー

パラスポーツにおいて活躍した学生

<最優秀賞>

名前	大学名
江崎 駿	法政大学 / Brex
兎澤 朋美	日本体育大学

★江崎駿さんのコメント★

「最優秀賞を頂き大変嬉しく思います。コロナ禍の中、感染症対策などを行いながら工夫して行ってきたことが良かったと思います。ポッチャという競技は、ボール拭くことが出来ないので、体育館の床を消毒したり、車椅子のタイヤを吹いたり、出来ることを行ってきました。またリモートでトレーニングの情報交換し活動を行ってきました。今後も感染対策を施しながらトレーニングを続け、目標である東京パラリンピックで練習の成果を発揮して、金メダルを目指して頑張りたいと思います。」

★兎澤朋美さんのコメント★

「最優秀賞を頂きありがとうございます。コロナ禍の中でさまざまな制約があり、感染予防対策として、極力移動を減らし、2部練習にしたり、自宅の近くで出来るトレーニングなどを行ってきたことが評価されたことを嬉しく思います。また今年度は東京オリンピック・パラリンピックの年で引き続き、記録も人間力も向上させていけるよう頑張っていきたいと思います。私は今回の東京がゴールでなく、その先のパリ、ロサンゼルスを見据えているので、モチベーションが下がることなく監督とコミュニケーションしながら日々の活動を行っています。大学で競技を初めて、私自身のマインドがプラスの方向に向けましたし、目標である東京大会に向けて、ブレずにやり続けることこそが願いが叶うと信じてまいります。」

<優秀賞>

名前	大学名	所属
赤窄 大夢	九州産業大学	ライジングゼファークオカ Wheelchair
瀬立 モニカ	筑波大学	筑波大学体育専門学群

◆サポーティングスタッフ・オブ・ザ・イヤー

学生アスリートや運動部を支える活躍をした学生

<最優秀賞>

名前	サポート対象	申請団体
今田 理子	全日本学生アーチェリー連盟	全日本学生アーチェリー連盟

★今田理子さんのコメント★

「最優秀賞を受賞して本当に嬉しく思っています。コロナ禍で大会をどのように運営するかということが一番の課題でした。9月に全国大会を運営できた事は私にとって大変貴重な経験となりました。」

た。今後の目標は、そこで発揮したリーダーシップを活かしてチャンレンジをしていく心を忘れないようにしたいと思います。」

<優秀賞>

名前	サポート対象	申請団体
衛藤 実優	国士舘大学女子新体操部 東京女子体育大学新体操競技部	国士舘大学
小川 由貴奈	女子ソフトボール部	中京大学
谷野 文史	日本学生オリエンテーリング連盟	日本学生オリエンテーリング連盟
豊福 妙香	陸上競技駅伝部	創価大学
山本 陽祐	アメリカンフットボール部	立命館大学

◆スポーツパーソンシップ・オブ・ザ・イヤー

スポーツパーソンシップ溢れるプレーや振る舞いを行った学生

<最優秀賞>

該当者なし

<優秀賞>

名前	大学名	所属
藤田 海人	九州国際大学	トライアスロン部
水野 拓海	富士大学	サッカー部

◆ルーキー・オブ・ザ・イヤー

運動部新入生として他の規範となる活動を行った学生

<最優秀賞>

名前	大学名	所属
吉中 日向子	青山学院大学	陸上競技部(短距離ブロック)

★吉中日向子さんのコメント★

「学業と部活動の両立を目指し努力してきたことが評価されたことは大変嬉しく思います。コロナ禍で練習が制限され大変なことが多かったですが、特に体調管理に人一倍気をつけて活動を行ってきました。部活と学業の両方を成功させたいと思って頑張ってきたので、本当によかったと思います。来期は、部活動で自己ベストを更新目指し努力することと、全国大会では自分の力を十分に発揮して上位入賞を、また学業も自分なりに工夫して優秀な成績を収められるよう頑張りたいと思います。来年入学する学生には、わからない事が多く苦労すると思いますが、強い気持ちを持って努力すれば必ず成功すると思いますので頑張ってください。」

<優秀賞>

名前	大学名	所属
栗 のどか	中京学院大学	女子卓球部
櫻井 つぐみ	育英大学	レスリング部
橋本 大輝	順天堂大学	体操競技部
藪田 みのり	武庫川女子大学	陸上競技部
山本 翔和	九州産業大学	空手道部

◆アルムナイ・オブ・ザ・イヤー

卒業後、社会に貢献した OB・OG

<最優秀賞><優秀賞>
共に該当者なし

◆コーチ・オブ・ザ・イヤー

人材育成や競技力向上に尽力した指導者

<最優秀賞>

名前	大学名	所属
吉田 匡孝	中京大学	男子サッカー部

★吉田匡孝さんのコメント★

「最優秀に選ばれると思っていなかったのが驚きと共に光栄に思っています。指導する上で、指導者が先頭に立つのではなく、学生が主体的に動ける仕組みの整備、主役になれるように促す指導を心がけています。この一年は、250名の部員がコロナ感染対策を行いながら、全部員が満足する活動が出来るように対策、心がけを指導するのが大変でした。デュアルキャリア形成にも力を入れており、サッカー部の運営を学生自身が行うよう、選手会という組織を編成し、スポンサーの獲得、地域とつながるための活動、地域の清掃活動などからスタートしました。サッカーを通じてどのように成長し、そして社会、地域にどのように貢献出来るか、それが社会で成長できる人材になると信じているので今後も働きかけていきたいと思えます。

サッカーで日本一を目指し、私自身も結果を出せる指導者として活動していきますが、競技面だけでなく、大学スポーツのカテゴリーの中で日本一の活動をしているのが中京大学サッカー部であると言ってもらえるような活動を行っていききたいと思えます。」

<優秀賞>

名前	大学名	所属
小幡 邦彦	山梨学院大学	レスリング部
高鷹 雅也	富士大学	サッカー部
信岡 沙希重	福岡大学	陸上競技部
八戸 了	中央大学	スケート部
山崎 裕貴	熊本学園大学	ソフトテニス部

【団体賞】

◆学修機会確保に関する優秀取組賞

運動部学生に対する学修機会の確保に関する先進的取り組みを行なった団体

<最優秀賞>

団体名	取組名
中京学院大学	コロナ対策を活用したスポーツ学生の学修機会の確保と教育改革の取組

★中京学院大学 代表者さまのコメント★

「教育改革の取組は、以前よりスポーツ大会に出場した学生にレポートの課題を提出していただくよう先生方に依頼をしていましたが、本年度は学習機会の確保をするように指導をお願いしました。コロナ禍ということもありオンデマンドの受講を行い、質問に対するフィードバックを即時行う環境を整備してまいりました。これにより学生も積極的に参加するようになり、質の高い学習サポートが出席率の向上や成績向上へ繋がったと考えています。今後もスポーツ活動を精一杯やって頂きたいですし、学業の方も力を入れ、デュアルキャリアを力強く推進して頂きたいと思えます。我々はその学生たちを支える側として支援していきたくて考えております。」

<優秀賞>

団体名	取組名
九州産業大学	アスリート奨学生に対する修学支援の拡充

◆成績管理・対策に関する優秀取組賞

運動部学生に対する成績管理・対策に関する先進的取り組みを行なった団体

<最優秀賞>

団体名	取組名
立命館大学	学業ガイドラインの制定および運用

★立命館大学 代表者さまのコメント★

「学生が大学へ進学する決断をしたことは、学業とスポーツの両立を目指して入学されています。色々な状況の中で、いち早く気づき、軌道修正をスムーズに行っていく事を目指し、気づきのツールとして、ペナルティからの脱却をするということを設定して運営してまいりました。躓きの兆候があった学生に対して、両立に向けての要注意、回復途上であり試合の制限をかけない状態、両立出来ず試合に出場出来ない、3つの段階を設け、学生本人、大学指導者、三位一体となり取組ことで、学業ガイドラインに抵触するものが減ってきている事が成果としてあらわれています。今後はこの取り組みを継続していくことにつきますと思いますが、学業とスポーツの両立が当たり前になる時代となり、このような制度がなくなる時代が来ることを期待しながら引き続き進めていきたいと思えます。」

<優秀賞>

団体名	取組名
武庫川女子大学 スポーツセンター	運動部新生生に対する「勉強法セミナー」の実施、オンライン授業体制における運動部学生へのフォロー体制の確立

◆安全確保に関する優秀取組賞

運動部活動における安全対策に関する先進的取り組み事例を行なった団体

<最優秀賞>

団体名	取組名
至学館大学 至学館大学短期大学部	学内でのPCR検査実施による新型コロナウイルス感染拡大防止対策

★至学館大学・至学館大学短期大学部 代表者さまのコメント★

「コロナウイルスの戦いは目に見えないものとの戦いのため、PCRという武器を使ってコロナウイルスを可視化することに注力してまいりました。これを実現するにあたり、大学全体の協力があって実現し、安全安心の確保は、スポーツ選手だけでなく、社会全体に与える影響も鑑みて受賞できたこと、本当にありがとうございます。学内の感染予防対策の意識は、学生が日頃から手洗い、消毒といった事の関心が高まったことで、感染状況が低く、また学内でPCRを実施するという動きが、学生の心に伝わったのではないかと考えています。基本的にマスク、手洗いは必須で、日本全体からインフルエンザが減少している事実からも、日頃の生活習慣から感染症予防出来るということがわかりました。来年度は世界が協力して、症状が出ていない人の感染を抑止し、コロナ拡大を抑え、日頃からの感染症予防対策を行うことで乗り切っていきたいと思えます。」

<優秀賞>

団体名	取組名
順天堂大学	アスレティックトレーニングルーム(ATR)における医療とスポーツ現場を結ぶ包括的支援
中京大学	安心・安全な体育会活動実現に向けたSA・ATを中心とした取り組み
福岡大学	福岡大学サッカー部における重症頭部外傷予防のためのテラーメイドベースラインの構築

◆大会・プロモーションに関する優秀取組賞

大会・競技の普及や活性化、集客・応援促進のための大会プロモーションに関する有料取り組み事例を行なった団体

<最優秀賞>

団体名	取組名
国士舘大学 女子新体操部	コロナ禍における新体操オンライン二大学友好大会「第一回新体操藤楓杯」発足の取組

★国士舘大学 代表者さまのコメント★

「この賞は、国士舘大学をはじめ、東京女子体育大学のみなさまのご支援、ご協力があったことと心より感謝しています。新型コロナウイルス感染拡大や思うようにいかない事がたくさんあったのですが、みなさまの協力もあってこのような賞を受賞できたことは大変嬉しく思います。国士舘大学と東京女子体育大学は、リモートで繋ぎ、友好試合をすることを計画しました。コロナウイルス感染拡大により、主要な大会が中止となり、4年生が悔しい思いをしている姿もあり、最後となる4年生の大会を実施しようと考えました。これまで実施したことがなかったので準備に苦労しましたが、このような経験ができたことは非常によかったです。良いことだけでなく、大変な事もいっぱいありましたが、それに負けないで乗り越えて来たことが、自分の今後の人生において大きな糧となると思うので苦難があっても乗り越えていけるよう頑張っていきたいと思います。新体操は一人だけでなく、チーム全員が同じ目標に向かっていくことが競技の魅力だと思います。日本一を目指して、結果だけでなくチーム力を大切に頑張りたいと思います。」

<優秀賞>

団体名	取組名
愛知学院大学	サッカーでつながるまちづくり「AGUCUP 2020」～SDGsの普及を目指して～の取組
青山学院大学 学生生活部スポーツ支援課	秩父宮賜杯 全日本大学駅伝対校選手権大会オンライン応援イベント実施の取組
関西大学体育会野球部	コロナ禍における学生による少年・少女にスポーツの楽しさを伝える取組

◆スポーツ統括部局/SA 賞

大学スポーツ振興に関する先進的取り組み事例を行なった団体

<最優秀賞>

団体名	取組名
関西大学 スポーツアドミニストレーター	スポーツアドミニストレーターによる広報活動とメンタル面などトータルのサポート

★関西大学 代表者さまのコメント★

「コロナ禍、体育会の学生たちが一生懸命に協力してくれた事、また指導者、関係者の方々に感謝したいと思います。関西大学、スポーツ振興グループの方々にも感謝申し上げます。学生たちのメンタルサポートは、クラブ、就職などの悩みに対し、面談形式で行いコミュニケーションしながら解決へ導けるように行っております。今後は、単発に終わらず継続することが重要だと感じております。」

<優秀賞>

団体名	取組名
青山学院大学 学生生活部スポーツ支援課	青山学院大学フィットネスセンター主催オンラインフィットネスの実施
中京大学	ALL とよた(産官学連携)によるスポーツを通じた地域課題解決の取組み
広島大学 スポーツセンター	大学スポーツを通じた地域貢献「WEB スポーツ教室」実施
名城大学	コロナ禍における組織一体的な大学スポーツの活性化への取組み
立教大学	コロナ禍における各種キャンプ実施 (フレッシュャーズキャンプ/リーダーズキャンプ)

◆UNIVAS CUP 2020-21

総合ランキング 10 位以上、各部門賞 3 位以上の大学を表彰

(1)総合ランキング(上位 10 大学)

総合順位	大学名
1	早稲田大学
2	東海大学
3	日本体育大学
4	立命館大学
5	天理大学
6	白鷺大学
7	中京大学
8	近畿大学
9	法政大学
10	関西大学

★第1位 早稲田大学 代表者さまのコメント★

「この度は、栄えある賞を受賞することができたこと、大変光栄に思います。また、日頃より本学の体育各部の活動を支援していただいている皆様に、活躍した全ての体育各部を代表して感謝申し上げます。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により練習の制限、大会の中止等、多くの変化を強いられる年となり、部活動へのモチベーション維持・向上が本当に難しかったのではないかと思います。そうした逆境の中で、各個人が今何をすべきかを考え、チームで知恵を絞って活動したことが、このような素晴らしい結果に繋がったものと考えております。このような栄誉ある賞を受賞できたことを心から感謝するとともに、今後とも多くの方にお力添えをいただきながら、大学スポーツを盛り上げていくよう尽力してまいります。」

(2)男女別ポイント獲得数(上位3大学)

・指定 31 競技大会に関して、男子競技・女子競技の各々における獲得ポイント数により大学の順位を決定し表彰する。

■男子競技部門

順位	大学名
1	早稲田大学
2	東海大学
3	天理大学

■女子競技部門

順位	大学名
1	早稲田大学
2	日本体育大学
3	白鷗大学

(3)男女別競技優勝回数(第1位~第3位の大学)

・指定 31 競技大会に関して、順位決定の最低単位(例:団体戦は1単位、順位がつく個人戦も1単位)における優勝数により大学の順位を決定し表彰する。

■男子競技部門

順位	大学名
1	日本体育大学
2	立命館大学
3	拓殖大学

★第1位 日本体育大学 代表者さまのコメント★

「まずはじめに、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中でも、UNIVAS 関係者や各競技団体等、多くの方々の協力により UNIVAS CUP が開催できたこと、誠に感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、思うような活動が実施できなかったものの、日本体育大学学友会と連携を図り、活動に参加するための条件やルール、感染を疑われる学生への対応まで示した「新型コロナウイルス感染症対策のための日本体育大学学友会活動再開に向けたガイドライン」を早急に整備し、できる限り活動してきました。

総合ランキングについては昨年度第2位という悔しい結果に終わり、今年度は第1位を目指し、取り組んで参りましたが、悔しくも第3位となりました。

しかし、本学が有する限られた競技種目の中でそれぞれが健闘し、総合ランキングでは及ばなかったものの、「男女競技優勝回数 男子競技部門 第1位」という部門で2年連続第1位を獲得できたことは、うれしく思います。

学生のみならず教職員等の指導スタッフの日頃の努力に対し感謝申し上げたいと思います。今後の一層の奮励努力に期待しています。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。」

■女子競技部門

順位	大学名
1	東洋大学
1	武庫川女子大学
1	早稲田大学

★第1位 東洋大学 代表者さまのコメント★

「この度、競技横断型大学対抗戦「UNIVAS CUP 2020-21」において、東洋大学が男女別優勝回数「女子競技の部第1位」になったことを、大変嬉しく思います。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、学生の安全確保を最優先に考え、活動禁止や厳しい活動制限を行いました。学生アスリート達は、集団での練習が制限される中においても、監督・コーチによるリモートでの指導を受けながら、自分自身と向き合い、努力し続けてくれました。その努力が、このような成績につながったのだと思います。

まだ、新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えておりません。引き続き、感染防止対策を徹底し、それぞれの目標に向かって、日々のトレーニング・学業に邁進してほしいと思います。

現在、アスリートの活躍は社会的に注目・期待されております。本学としても、学生に対してより多くの活動機会を提供し、サポートし続けて参りたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。」

★第1位 武庫川女子大学 代表者さまのコメント★

「この度は、「男女別優勝回数 女子競技の部第1位」として表彰いただき、誠にありがとうございます。UNIVAS AWARDS 初年度は、当該部門で第3位として表彰いただきました。大学スポーツ協会のホームページに日々更新される UNIVAS CUP のポイントを時折確認し、本年度は厳しいかなと思っていたところに、第1位の受賞通知をいただきましたので、大変驚いております。

本年度は、コロナウィルス感染拡大の影響により、普段の練習は大幅に制限を受け、さらに多くの試合・大会が中止となり、クラブによってはこれまでの練習の成果を発揮できないまま、残念に思う学生が少なからずいたと思います。そのような中でも、試合・大会に出場できる機会に恵まれた学生は、その一試合一試合を大切に、精一杯全力を尽くしてくれたのだと感じています。

今回の第1位を受賞させていただいたことは、学内で積極的に広報し、運動部学生だけでなく、一般学生や教職員とともに喜びを分かち合いたいと思います。」

(4)8地区別ポイント獲得数(各地区第1位~第3位の大学)

会員大学をその所在地により8地区に分け、ポイント獲得数によりその地区における大学の順位を決定し表彰する。

■北海道地区

順位	大学名
1	北海道大学
2	北翔大学
3	旭川大学

★第1位 北海道大学 代表者さまのコメント★

「第2回 UNIVAS CUP 北海道地区第1位の受賞、本学を代表いたしまして、感謝と御礼を申し上げます。昨年に引き続き2度目の受賞となりますが、スポーツ強豪校の中での地区第1位の受賞、恐縮しております。また、新型コロナウイルス感染の蔓延の中での UNIVAS CUP の実施に御尽力された UNIVAS ならびに関係者の皆様に深謝させていただきます。UNIVAS CUP をはじめとする UNIVAS の事業活動は、新型コロナウイルス感染により学生生活が著しく制約されてきた本学学生において、スポーツ競技へのモチベーションの維持向上にとっても有意義でありました。新

型コロナウイルスの影響が大きかった札幌市に位置する本学では、今年度、クラブ活動休止期間も長く、本学学生もモチベーションを維持することが困難でありましたが、安全で安心してクラブ活動を行うことができるように環境整備への配慮を大学全体で行ってまいりました。今後、学生アスリートの皆さんには在学中のスポーツ活動がより意義のあるものになるように期待しております。そのため、私たち関係職員も UNIVAS の活動を有効に活用し、学生アスリートが安心してスポーツ活動ができるようにさらなる環境整備を行いたいと思っております。」

■東北地区

順位	大学名
1	仙台大学
2	八戸学院大学
3	東北福祉大学

★第1位 仙台大学 代表者さまのコメント★

「本学では、新型コロナウイルスへの感染予防を最優先としつつ、部活動が継続できる方策として健康管理システムを構築した。学生の自己管理とそのデータを継続して記録することにより、コロナ禍の中でも各部では活動に取り組む事ができている。このような環境を土台として、各部活動に参加している学生諸君が、自らが活動できる事の意味を自覚し、集中して取り組んできた事が、今回の成果に繋がったのだと思う。特に、これまでインカレで2年連続総合優勝しながらも届かなかった漕艇部のエイト優勝は特筆すべきものと考えている。今後も、学生諸君が活動に集中できる環境づくりのために、スポーツ局として努力していきたい。」

■関東地区

順位	大学名
1	早稲田大学
2	東海大学
3	日本体育大学

■中部地区

順位	大学名
1	中京大学
2	山梨学院大学
3	名城大学

★第1位 中京大学 代表者さまのコメント★

「この度は、UNIVAS CUP 2020-21 において中部地区 1 位を獲得することができ大変嬉しく思っております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い相次いで大会が中止・延期されるなど学生にとって普段の練習の成果を発揮できる場が限られていました。そのような状況のなか、UNIVAS CUP を開催いただきました UNIVAS 並びに競技団体の皆様には深く感謝いたします。

学生アスリートも、コロナ禍においてオンラインミーティングを活用しながらチーム力向上に取り組むなど創意工夫をしながらの活動を行ってきました。今後も感染防止対策を講じながらの活動となると思いますが、学生アスリートには練習・試合ができる環境、さらにはそのような環境を作り上げていただいている関係者に感謝しながら競技力向上に邁進していった欲しいと思っております。」

■近畿地区

順位	大学名
1	立命館大学
2	天理大学
3	近畿大学

★第1位 立命館大学 代表者さまのコメント★

「この度は、本学の学生アスリートやその活動を支える学生スタッフ、指導者の弛まぬ努力が結実し、UNIVAS CUPにおいて近畿地区1位を獲得できたこと、大変嬉しく思います。今年度はCOVID-19の影響により、これまで当たり前であった対面での活動を停止せざるを得ない時期を伴い、各種大会も中止され、学生にとっては辛く、苦しい一年となりました。教職員にとっても、重要な学びと成長の場である体育会活動を一日でも早く、しかも安全にかつ安心して取り組める状況で再開することができるか、自問自答の日々でした。幹部学生を中心に全ての部の学生とWeb面談を行い、感染から自分たちと周囲を守るための方法と決意を確認し、部員との信頼関係を構築させながら再開にこぎつけました。学生たちは困難な環境を受け入れ、自らを律し、工夫しながら、各々の形で活動に取り組みました。各部で、従来の活動の代替を模索するのではなく、この環境下でのベストな活動を模索し続けることができた底力が、この成果につながったものと思い、心より敬意を表します。体育会学生の皆さんには、今後も様々な予期せぬ困難な状況が待ち受けているかもしれません。今回の体験を糧に、応用力を身に着け、更なる成長を果たしてくれることと確信し、期待しています。教職員も学生に負けぬよう、ともに成長をしまいにいます。」

■中国地区

順位	大学名
1	広島大学
2	環太平洋大学
3	—

★第1位 広島大学 代表者さまのコメント★

「この度本学が、競技横断型大学対抗戦「UNIVAS CUP 2020-21」において、「中国地区第1位」の成績をいただきましたこと光栄に存じます。

各強豪大学が新型コロナウイルス感染症対策を施しながら選手の育成に取り組んでいるなか、文武両道を目指す本学としては今度の結果を栄誉だと感じております。

本学としては、各クラブから感染症対策を施した状況での活動申請を書面で提出、本学理事以下で審査のうえ許可した団体しか活動を認めないという厳しいものでした。

特に、当初活動を全て停止させていたことから、3つのステージで取り組ませることで、体力面でのサポートとして怪我が起きないように徐々に活動レベルをあげるよう配慮してまいりました。

結果として、大会への集中力や怪我への防止につながったと思っています。

以上のことから、引き続き地方大会でのレベルアップとともに、全国大会において結果が出せるようなチーム作り、個人のレベルアップを期待しています。」

■四国地区

順位	大学名
1	松山大学
2	徳島大学
3	香川大学

★第1位 松山大学 代表者さまのコメント★

「コロナ禍において多くの制約がある中で、課外活動に取り組んだ学生たちの努力が評価されたことを大変うれしく思います。

大学生としてスポーツに打ち込めることは「当然のこと」ではなく、多くの方々のご支援・ご協力に支えられているのだということを改めて胸に刻み、学生と大学が一体となり、大学スポーツの一層の発展に取組んでまいります。」

■九州地区

順位	大学名
1	鹿屋体育大学
2	福岡大学
3	福岡工業大学

★第1位 鹿屋体育大学 代表者さまのコメント★

「この度はコロナ禍という難しい環境の中、大会開催に向けてご尽力いただきました多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。UNIVAS CUP 2020-21において、九州地区第1位という素晴らしい結果を獲得できたことを嬉しく思います。

今年度は、コロナ禍の影響で多くの団体が満足のいく練習ができなかったかと思えます。練習ができる環境になっても一定の制約の下で、徹底した感染拡大防止策を講じるとともに少人数にグループ分けして練習の実施やオンラインによる実技指導等の工夫・努力が結果に結びついたことと思えます。

学生アスリートには、コロナ禍という先が不透明な状況だからこそ、限られた時間・環境の中で「今、何ができるのか」「今、何が必要なのか」を考え、競技力の向上を図っていただければと思います。」